



言葉のもつ影響力

校長 大関 正人

夏休み中にパリオリンピックが開催されました。その中で、特に心に残った出来事があります。

スケートボード女子パークに出場した四十住さくら選手。前回の東京オリンピックで金メダルを獲得した彼女は、今回も大きな期待を背負っていました。

22人が予選に臨み、上位8人が決勝に進むという条件の中、四十住選手は予選の最初のグループで4位となりました。しかし、まだ16人の選手が残っており、四十住選手の点数を5人が上回った時点で、決勝進出・メダルの可能性がなくなってしまいます。

その状況で受けたインタビューで、四十住選手はこう語りました。

「決勝には行きたい。でも人の失敗は祈りたくない。」

結果的に、彼女は決勝には進むことはできませんでした。しかし、他の選手を尊重する気持ちから出たこの言葉は、私の心に深く残りました。

一方、SNSでは、選手や審判に対して心ないメッセージが投稿される場面も見られました。

オリンピックはその規模の大きさから、多くの人が熱心に応援しますが、時にその応援が過熱しすぎる場合があります。期待通りの結果が得られなかった選手に対する攻撃的な書き込みもその一例です。書き込みを載せた本人に誰かを傷つけている意識がなくても、選手本人や選手を支えてきた家族や関係者を苦しい気持ちにさせているのです。

テクノロジーの進歩により、誰でも簡単にメッセージを発信できるようになりました。だからこそ一人ひとりの言葉が大きな影響をもつことを自覚し、誰かを傷つけることがないように、注意していかなくてはなりません。

夏休みが明け、前期の後半が始まりました。生活目標は、「明るいあいさつをしよう」「協力して取り組もう」です。

全校朝会では、パリオリンピックで心に残った出来事を紹介しながら、東っ子と一緒に「相手のことをおもう」ことの大切さを改めて確認し、言葉のもつ影響力について考えました。学級や全校の活動の中で、多様性を尊重しながら仲間との関わり方を具体的に学び、個性を認め合い、共生社会を築くための力を育てていきたいと考えます。

